

## 意見陳述書

全国B型肝炎訴訟九州訴訟原告団

原告番号 85番

## 1. はじめに

私は、現在34歳です。夫と娘の4人で佐賀県に住んでいます。母親が予防接種によりB型肝炎に感染し、私は母子感染しました。福岡地方裁判所に無症候性キャリアで提訴しています。

## 2. 感染が判明して

母は、私が10歳のころ、献血の際に、B型肝炎ウイルスに感染していることが分かりました。すでに慢性肝炎を発症していて、すぐ入院することになりました。そのときに、家族も血液検査を受けたところ、私も私の姉もB型肝炎ウイルスに感染していることが分かりました。

病院の先生からは、このウイルスは血液を介して人に移してしまうので、怪我をしたりしても、絶対に人に血を触らせてはいけないと言われました。

このように聞いて、私自身の血液が、人に病気を移す凶器のように思えました。

親しい友人にも病気のことを話すことはできませんでした。もし、私が人に移してしまうウイルスを持っていることが分かれば、友だちから怖がられて避けられるんじゃないかと思ったからです。

感染していることが分かってから、誰にも病気のことは言えず、献血に誘われた際には貧血ぎみだからと嘘をつくなどして、その場をごまかしていました。なぜ、友だちとの会話なのに嘘をつかなければいけないんだろうとみじめな思いをしました。

症状が進んでいないかを検査するために、半年に1回定期検査に行かなければいけませんでした。

症状もなく、結果も毎回問題ないと言われていたのに、一日かけて病院に行き、検査を受けなければならないことが、とても嫌でした。

ある日、姉と一緒に母に連れられて定期検査を受けに行く途中で、母に対して、「なんで、私たちだけ、こんな病気にならなきゃならないの。」と言ったことがありました。病気の原因は母にあるんだと思っていたからです。母は、立ち止まり、何も言わず、ただ悲しそうな表情で私を見つめていました。

その日の夜、ふすまを隔てただけの隣の部屋から母のすすり泣く声が聞こえてきました。昼間の私の言葉が、母に涙を流させているのだと分かりました。私は、母に何も言えませんでした。これ以上責めることも、謝ることもできませんでした。ただ、母が泣いていることを知ったことを母に悟られてはいけなと思いました。

### 3 夫への感染

友人には病気のことは話せませんでした。夫には交際が始まって比較的早くに打ち明けました。嫌な目で見られるんじゃないか、夫の気持ちが変わってしまうのではないかと不安に思いました。しかし、交際を続けていくにはと思い、勇気を振り絞って打ち明けました。

夫は私の病気を受け止めてくれました。大好きな人に理解してもらったと思い、とてもうれしく、夫を大事にしていきたいと思いました。

そう思っていたのに、夫に感染させてしまうという事件が起きました。夫が急性感染を発症し入院したのです。感染させた原因は私にありました。劇症肝炎のことも頭に浮かんで、夫は私のせいで死んでしまうのではないかと悩む日々が続きました。

夫は就職した直後だったのに入社できず、仕事面でも迷惑をかけました。今後、夫とどうしていけばいいのか分からず、毎日一人で考え込んでいました。

### 4 出産

幸い、夫は無事回復しました。その後、私は二人の子どもに恵まれました。子どもができたと分かったときは普通喜ぶと思いますが、私は子どもにも移して、辛い思い、苦しい思いをさせてしまうのではないかと不安に駆られました。

母子感染の説明も医師から受けましたが、感染を防げない場合もあると説明されたので、余計に不安になるばかりでした。

子どもたちには出産直後にワクチンが打たれました。無事抗体ができて母子感染を防ぐことができました。これで私と同じような不安や苦しみを味わわせなくて済んだと思い、心の底から安心しました。

### 5 母の症状の進行

母は、感染が分かって入院した後は、定期検査を受けながら過ごしていました。

しかし、母が52歳のとき、肝がんが見つかりました。

外科手術ができない場所で、色々な内科治療を受けましたが、完治す

ることはなく再発を繰り返しました。自分のせいで私たちに感染させてしまったという苦しみから逃れられないまま、59歳という若さで亡くなりました。

私はまだキャリアの状態ですが、母と同じように慢性肝炎を発症し、肝がんが見つかり、死んでいくのではないかと不安が常につきまっています。

かわいい二人の娘の成長をずっと元気に見ていけるだろうかと不安になるときもあります。

私たちキャリアの患者は、元気なようには見えます。しかし、症状が進行していくというおそれと常に向き合っており、不安な日々を過ごしているのです。

#### 6 真相究明に対し望むこと

私は、ウイルスに感染していることが分かってから、なぜこの病気になったのかをずっと知りたいと思っていました。母が予防接種における注射器の回し打ちで感染し、母から母子感染したことは分かりました。それだけではなく、どうして注射器の回し打ちが行われていたのか、根本的な原因を知りたいと思います。

被害者が納得できるように、原因を究明していただきたいと思います。

また、国の対応がどうして遅かったのかという点も究明していただきたいと思います。

平成18年に最高裁判決が出されたにもかかわらず、国は広報も救済もしませんでした。

母はずっと自分のせいで私がウイルスに感染したと思って悩み、平成19年に亡くなりました。もし、国が当時しっかり広報をしていれば、母は自分を責めることなく、少しは救われて亡くなったと思います。

また、早く救済を受けていれば、保険外の高額な治療を受けて、もっと長生きできたかもしれません。もっとやりたいことができたかもしれません。

なぜ、早く広報や救済等がされなかったのかという点についても詳しく調査していただきたいと思います。

そして、このような被害が二度と起こらないように、再発防止策をしっかりと考えていただきますようお願いいたします。

以上